

取組と目標に対する自己評価シート

年度	平成30年度
----	--------

前期（中間見直し）

実施内容
<ul style="list-style-type: none">・多職種合同ケアカンファレンス（自立支援のための地域ケア会議）の開催 月2回開催（12月まで計18回開催）・元気アプリハビリ（総合事業C型）の活用 平成29年度契約全ケースにおける利用率は、40数%（従前相当サービスの利用率は10%以下）。平成30年度契約ケースについては未集計。
自己評価結果
概ね順調に実施できている。 本年度前期は、平成29年度のアウトプット（多様なサービス利用率）及びアウトカム（給付費の伸び）を集計し、今後の取り組みの進め方について検討を行う時期であったが、想定よりも良い結果であったことから、概ね取り組みの方向性は正しかったと評価している。
課題と対応策
専門的なサービスを終了し、元の暮らしに戻った利用者（卒業した人）がその後も状態を維持しているかどうかは、現時点では「要介護認定の区分変更がなされていないこと」しか評価できないことから、アウトカムは長期スパンで見えていく必要があると感じている。 そのため年度後半では、修了者を定期的に体力測定する事業を予定している。

後期（実績評価）

実施内容
<ul style="list-style-type: none">・多職種合同ケアカンファレンス（自立支援のための地域ケア会議）の開催 月2回開催（計24回開催）・元気アプリハビリ（総合事業C型）の活用 平成30年度契約全ケースにおける利用率は、40数%（従前相当サービスの利用率は10%以下）。
自己評価結果
順調に実施できている 平成30年度総合事業サービス費の対前年比 通所：17%減、訪問26%減 要支援給付費＋総合事業サービス費の合計対前年比 0.3%増
課題と対応策
専門的なサービスを終了し、元の暮らしに戻った利用者（卒業した人）がその後も状態を維持しているかどうかは、現時点では「要介護認定の区分変更がなされていないこと」しか評価できないことから、アウトカムは長期スパンで見えていく必要があると感じている。 次年度は介護保険事業計画策定ニーズ調査を悉皆調査で実施する予定。